

てるびっと

No. **11**
2005.3

京都府海外研修KYOのあけぼの会



海外研修KYOのあけぼの会
会長 田中 田鶴子

ごあいさつ

2005年度の海外研修KYOのあけぼの会では、日本初の水力発電所である京都蹴上水力発電所のルーツをたどる米国アスペン市視察研修を計画しております。この研修の主旨は、今はその姿だけをとどめているこの発電所の変遷推移についてはよく知られていないため、この度当会でそのルーツをたどる海外研修を実施したいと考えました。様々な研修会を通じ、女性関係団体のネットワークから数多くのことを学び、また国際的視野を有した女性リーダーの育成と資質の向上を目指したく、是非とも多くの皆様にご参加いただけることを期待しております。

また、男女共同参画社会の実現に向けて、男女の人権が等しく尊重され女性のエンパワーメントが図れる地域社会づくりに貢献していきたいと考えております。

会員の皆様におかれましては引き続き当会の活動に対しまして、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会員の皆様におかれましてはお元気にご活躍のことと存じます。当会機関紙「てるびつと」が第11号を発刊する運びとなり大変うれしく存じます。発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年スマトラ沖地震・新潟県中越地震や台風による災害の多い年となり、世界中で多数の尊い命が失われたことに心から哀悼の意を表します。京都府でも台風23号の被害が大きく、ちょうどその時期に計画しておりました、舞鶴海上自衛隊見学研修会も自衛隊の復興支援活動の真っ只中であることを踏まえ、やむをえず急遽中止を決定しました。大変残念ではございましたが、復興への皆様の温かいご理解が得られましたことに深く感謝する次第です。

IT体験学習

(主催:商工会議所女性会・海外研修 KYOのあけぼの会合同ワークショップ)

ワークショップIT体験をふりかえり

瀧 静子



海外研修KYOのあけぼの会と京都商工会議所女性会との共同企画でスタートしましたワークショップIT体験もおかげさまでパートIVを終えました。いずれも1講座60分、20名を2回。合計40名の受講を頂きました。

2001年1回目は「あなたもインターネットに触れてみませんか」と題しまして、まさにインターネットがいよいよ家庭にまで入ろうとしている時期でした。まだまだ、マウスの使い方も苦労してお手伝いしたこと。そしてとても皆様に楽しんでいただいたことを思い出します。

2002年2回目は「オリジナルの名刺」楽しい夢中になった1時間であったと受講された方の感想を頂き、スタッフ一同汗を拭き拭きの大奮闘の甲斐がありました。

2003年3回目は「デジタル写真で遊ぼう」と題して、受講の皆さんの顔写真をその場で撮影し、パソコンに取り込んでオリジナルマグネットを作りました。1回目、2回目と大変好評をいただき、もっと時間が欲しいとのご意見も頂き、3回目は午前と午後に各90分間で今までの60分から延長して大サービスを行いました。さすがに先生もお疲れになったことでしょうか、私たちサポートのメンバーも朝早くから1日時間との戦い。皆さん若さでがんばったものの少々(?)ぐったり。とはいえ達成感で疲労回復でした。今から思い出しても「お疲れ様」です。

2004年4回目は、「オリジナルクリアファイル」を企画いたしました。4回目を迎え、いよいよ受講の皆様にはどのような企画が喜ばれるか大変不安になってまいりました。下谷先生にご苦労を頂き、クリアファイルになりました。受講の皆さんは、1回目では苦労したマウスもほとんどの方は手馴れた手つきで驚きました。喜んで作品をお持ち帰りいただく様子に一同疲れも吹っ飛び胸をなでおろしました。

昨年の4回目でテーマを決めるのに苦労いたしましたのは、4年間の間にネットワークのインフラ(電話回線などの環境整備等の進歩)が整い、社会環境が大きく変化しております。このような環境の中、パソコン講座を開催するには、受講される皆さまの知識の格差が大きく、短時間では、一般的な講座は難しくなっていると思われまます。たった4年間といえども世の中は非常に速いスピードで進んでいることに改めて実感いたしました。

ここまで回を重ねて開催できましたことを、大変うれしく思います。これもひとえに、海外研修KYOのあけぼの会と京都商工会議所女性会のみなさまのご協力のおかげと感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後ともよろしく願いいたします。

2004年度 総会及び研修会

● 日時:平成16年4月23日(金)午後2:00分～ ● 場所:京都府国際センター研修室

総会

- | | |
|---------|-------------------|
| 1. 開会 | 2. 会長あいさつ |
| 3. 来賓祝辞 | 4. 議長選出 |
| 5. 議事 | ①2003年度 事業報告 |
| | ②2003年度 収支決算報告 |
| | ③2003年度 会計監査報告 |
| | ④役員改選 |
| | ⑤2004年度 事業計画(案)審議 |
| | ⑥2004年度 収支予算(案)審議 |
| | ⑦その他 |
| 6. 閉会 | |

研修1

研修会の体験報告

平成十五年度研修会 青木 好子
第2回自主研修(湯布院) 武田 公子
平成十三年度研修会 高島 シズ子



研修2

佐村 知子副知事との交流会

パブリックコメントなどの実施により、多くの府民の皆さんの意見聴取をしながら誕生した「京都府男女共同参画推進条例」について、副知事からお話いただきました。ウイットに富んだ語り口の中に、条例の理念や苦心された点、内緒にしておきたい苦労話などがちりばめられており、改めて私たちの条例として私たちが育んでいくことの大切さを感じました。



表題「てるびつと」は、前京都府知事荒巻禎様の直筆で、インドネシア(京都府友好国)「あけぼの」の意味です。
京都府に息づく豊かな自然の美しさ、「花」しだけ桜、さが菊。「木」北山杉。「鳥」オオシロシロキタリ。を「塚」フランス刺しゅうで表現したものを表紙絵にしています。

あけぼのフェス参加者の意見

- ① 毎年ITのワークショップ参加楽しみにしています。
- ② インストラクターは親切で解り良かった。
- ③ ファイル(名前入)を仕上げ簡単に出来うれしかった。
- ④ フロッピーを持ち帰りパソコンを開けようとしたけれど開けられない。説明のコピーがあれば良かった。メモをしておけばと後悔した。
- ⑤ パソコンを自分のものにするのにおそろおそろだけど頑張って習ういいチャンス(今回初参加)
- ⑥ 63才で機械に弱いと決めつけているが来年から思い切って「やる」と決意した。

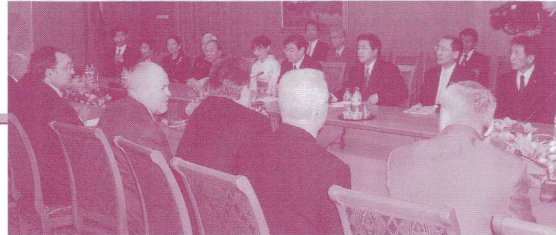


IT体験パートIV

オリジナルのクリアケース作りに
挑戦しませんか!!

京都府レニングラード友好提携 10周年記念京都府友好訪問団

- ① 目的： 京都府とロシア連邦レニングラード州との友好提携10周年にあたり、同州との友好関係の発展と交流の推進を図る（ロシア連邦政府訪問、日ロ環境シンポジウム等）
- ② 日程： 平成16年10月12日(火)～10月18日(月)【7日間】
- ③ 訪問先： ロシア連邦 モスクワ市、レニングラード州



～ 国際交流が私に与えてくれたもの ～

世界は今、急速な社会進展に伴い経済機構の編成・環境問題・エネルギー食糧問題など国際社会の課題の中で、お互いの価値観が理解しあえる国際交流が求められています。

振り返って見ますと平成13年に、京都府連合婦人会の国際交流事業に参加し英国のピーターバラとエジンバラへ親善訪問しました。ピーターバラでは、日本文化の紹介で“お茶席・手芸・折り紙”を体験を通して友好を深め現在も環境問題等情報交換を続けています。

エジンバラは、京都府と友好提携都市で女性団体との交流を申し入れました。“社会的な女性の地位とボランティア活動について”をテーマに話し合い、その中で ●女性自身の意識を変えること ●女性が力をつけること ●社会進出について考えることがあげられました。現在市議会女性議員は全体の40%、ボランティアグループが600余りあり、活発な活動をしていると紹介されたことを思い出しています。

本年は、京都府とレニングラード州との友好提携10周年を記念し、10月12日から7日間京都府訪問団は、ロシア連邦モスクワとレニングラード州を親善訪問され私も参加しました。

モスクワでは、ロシア連邦水資源モニタリング庁を訪れ、地球温暖化防止対策や京都議定書発効への協力依頼に対し、ロシア政府は国際社会の課題としての政策と伺い期待して退庁しました。予定の行程を終え14日レニングラード州へ入りました。

サンクトラペテルブルグは、歴史文化の重みと近代文化の融合した美しい街で、州政府の手配で施設の訪問や視察、記念事業等、意義深い親善訪問となりました。

特に京都文化の紹介は山田美嘉様の茶道お点前、お運びは和服姿のロシア女性で双方の心が溶け込み真の国際交流を体得した思いでした。日ロ環境シンポジウム、日本桜の記念植樹等、両府州の信頼関係が人脈となって友好交流の促進になることを願い、また海外研修KYOのあけぼの会が国際社会の人づくりの場として、活用させていただきたいとの思いで帰国いたしました。

京都府を始め関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

栗田 澄子



「京都府男女共同参画推進条例」誕生から満1歳～あなたもチャレンジ!

「海外研修KYOのあけぼの会」をはじめ各種女性団体の熱い声援をいただいて生まれた、「京都府男女共同参画推進条例」が施行されて1年が経ちました。

堅い言葉で、ちょっと親近感が持てませんか? でも皆さん、日頃から地域、家庭、また職場と、様々な場面で条例の理念をご自分の言葉で、生かしていただいていることと思います。一人でも多くの女性が、様々な分野で個性と能力を十分に発揮できるよう、京都府においても、条例制定を機により一層「女性のチャレンジ支援」に取り組んでいます。

いつでもどこでも誰でもチャレンジ!

「海外研修KYOのあけぼの会」におかれましても、新規会員の加入を進めネットワークを広げながら、積極的に海外自主研修を企画されるなど、ステップアップを図られており、まさにチャレンジのロールモデルといえます。そして、意欲が増すにつれさらに「もっと～したい!」との思いが皆さんの中でふくらんでいませんか。

本年度、就業やキャリアアップ、起業、NPOづくり、ボランティア活動など、女性の幅広い参画や能力発揮を支援し、男女共同参画の一層の推進を図るため、一人ひとりのニーズに合ったチャレンジをサポートするため、各種施策を実施しました。

- 女性のチャレンジ相談窓口の開設 ●「キャリア支援講座」の創設
- 「女性チャレンジネットワーク会議」による連携強化
- 「チャレンジ・サイト」の開設や、「チャレンジ・ハンドブック」の刊行を通じての身近なロールモデルの提供など

※詳細については、京都府女性総合センターHP内「チャレンジ・サイト」(<http://www.kyoto-women.sc.jp/challenge>)をご覧ください。

「チャレンジ」という言葉は、その受けとめ方や取り組み方に、様々な形があることでしょう。

今後も男女共同参画の視点で、条例を抛り所としながら、地域に根ざした男女共同参画の推進に努めていきたいと考えています。

「女性副知事サミット2004しが」への参画

2004.9.4 会場：びわ湖ホール

昨年度、「KYOのあけぼのフェスティバル」で実施した女性副知事サミットが、お隣の滋賀県にバトンタッチされ、佐村副知事をはじめ全国の女性副知事5名が一堂に会しました。KYOのあけぼのフェスティバル実行委員会メンバーである「海外研修KYOのあけぼの会」の皆さんもこのサミットに参加し、「男女共同参画と次世代育成支援」のテーマのもと交わされた力強いエールの交換に新たな感銘を受けました。その一端をご紹介します。

佐村 知子 京都府副知事

制度やシステムが整備され、家庭で足りない部分は地域の子育て力を活用して相談ができたり、職場が自然と受け入れるようになれば、子どもや家庭を持つことに夢を持てるのではないかと。男女双方にバランスがとれた男女共同参画社会が大切である。

安藤 よし子 滋賀県副知事

少子化の背景にある問題とは非常に根深く、制度や行政サービスの充実を進めるとともに、根底から社会を変える、生き方を変える、意識を変えることが必要。その時にキーワードとなるのが男女共同参画。これを基本に据えながら少子化対策を。少子化こそが社会システムを変える原動力。危機をチャンスに。

内野 淳子 岡山県副知事

少子化の流れを変えるのに最も大きな障害は、働き方の問題。「職場」には男性中心の慣行、文化、風土があるのでは? この比重をずらしていく。少子化の流れに対応するためには、いろんなところで男女共同参画をしていないと対応できない。

引き続き2005年度は岡山県で開催される予定です。ご期待ください。

(早春研修)

～ 水辺の遺産、明治の大プロジェクト琵琶湖疏水と近代産業都市への日本初の水力発電 ～



春まだ浅い3月1日海外研修KYOのあけぼの会は、京都府の男女共同参画推進条例が制定されたことをうけて、男女がともに支えあい一人ひとりがいきいきと輝ける社会を創り上げていくための課題や現状等について学ぶとともに、次年度の自主事業に予定している海外視察研修の事前研修と位置付ける運びとなりました。

午前の部(施設見学)

1. 琵琶湖疏水竣工100周年記念として建てられた疏水記念館

2. 水力発電の日本初発祥の地、蹴上発電所

(関西電力荒神口製御所(足立所長) 円町製御所(山中所長)のお二人で御案内を下さいました)

午後の部(講演と意見交換)

演題「琵琶湖疏水物語から現代の(まちづくり)を考える」

講師 織田 直文 京都橘女子大学政策学部 教授

1. 「水」について考える

- (1) 命の源、文明、文化を育む基本 大河の文明、ローマの水道
- (2) 水の保全、利用
- (3) 水を活かしたまちづくり
- (4) 課題と展望

2. 琵琶湖疏水について

- (1) 京都の起死回生策として
7大目的、計画、建設ドラマ、設計変更、アスペンからのヒント
- (2) 土木技術の粋を集めて
- (3) 京都にとっての意味・日本にとっての意味
- (4) 人物をめぐって
- (5) 京都のまちづくりについて考える

3. 女性とまちづくり

- (1) 社会が女性を求めている
- (2) 女性が社会を求めている
- (3) 取り組み事例
- (4) 課題と展望

今回は「琵琶湖疏水」の著者であり地域プランナーとしても活躍される(京都橘女子大学政策学部の織田 直文教授)に疏水をめぐる熱い想いと人間模様をお伺いすることが出来ました。

春の研修会一言感想

【琵琶湖疏水記念館】

東京遷都により京都の衰退を心配し、町おこしのために、この疏水のプロジェクを発足させたとき、ものすごい事が出来るのだと感動した。(目崎 節子)

京都に生まれていながら初めて訪れました。明治の時代に先人の智恵と情熱が京都をうるおしていることを改めて考えました。人間の持つ力の素晴らしさに感動致しました。その時代の人々の苦勞のおかげで今があることを再確認。(大野 三恵子)

幼少より疏水があるのが当たり前であるかのように気にも止めず育ってきたものです。小学生の頃より学習の一環で設備の見学をした事を思い出しました。しかし、改めて本日記念館を訪れ、疏水の果たしてきた重責を感じました。疏水の流れは、世の流れであるようにも思いました。もし都が東に移らなければ、日本の産業は現在のように発展していなかったとも思います。とても良い機会でした。(家村 咲栄)



【蹴上発電所】

第3回世界水フォーラムに参画する機会から上桂川流域ネットワーク事業等による新庄発電所(園部)又この115年の年月を経た発電所双方とも人力を集合する気の遠くなる作業を思う時天声と他に…。

これだけの建造物が今も堂々と残っています。その事をもっと「見てもらいたい」「もったいない」「のこしといて」そんな思いで一杯です。御案内あればこそ感謝申し上げます。(一瀬 裕子)



水力発電は私の地域にもあります。よく子供の頃見学に行きましたので、なつかしく見学しました。地球環境にやさしい水力発電が21世紀の電力供給に是非必要である事を実感しました。(前田 芳子)

蹴上発電所が日本で最初の一般供給用水力発電所であるという大きい意義を持っているということ、それが琵琶湖疏水のお陰で、電源を水力発電とすることによって、発電のコストが押さえられ、一般供給されるようになったという、非常に意義深い発電所であることを学んだ。今は使われていない赤レンガ作りの第2期蹴上発電所建屋入口には「亮天功」の久邇宮邦彦殿下筆が印象に残った。(鈴木 初子)

【講演とその他】

水のルーツをさぐり、琵琶湖疏水の今まで果たしてきた歴史を改めて考える機会になりました。とりわけ環境問題についても考えるいいチャンスだったと思います。男女の縦割担意識のデータの話もあり、時代の変化を感じました。講師は大変明るく人間性豊かな人柄だったと思います。時宜を得た計画でした。素敵な時間を有難うございました。(中畔 都舎子)

今日は、いちばん大切な水とのかかわりがあり、見学や講演会に参加出来ましたこと大変感謝し、ありがたく思います。細かい資料やいろいろな参考資料を頂きありがとうございます。「水」について考えるいいきっかけでした。水を生かしたまちづくりの話も大変よかったです。あわせて女性のまちづくり、つまり男女共同参画白書による男性女性の考え方(資料-A)による役割分担意識の変化を見るとよくわかります。記録を残すと同時に事をやらせながら人が人を創り、残す時代だという大変いいお話を伺うことが出来ました。ありがとうございました。一年に一度の研修会を大変楽しみにしておりました。皆さんの元気な姿を拝見し、ああ、今年も皆んな元気に会えることが出来たと嬉しく思います。又、今日一日いい研修を企画を頂きまして本当にありがとうございます。(井上 敬子)

一人ではなかなか見学しにくいところへ参加学習することが出来ました。講演も、意義深きみのりの多い時間を過ごさせて頂きました。(山野上 里子)

改めて「今を生きる」ことを教えられたと思います。「あの頃がよかった」の「あの頃」は「今」であるとも感じ、「歴史を残す」ことと同じだと思いました。初めて参加させてもらいとても感謝しています。ご縁に深謝申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。(小林 香代子)

由良川、和久川の流れと共に育ち生活しております。郷土を愛する心は同じで今日は又始めて琵琶湖疏水の話、大変心に残る水の話は素晴らしい気持ちで聞かせて頂きました。難しい水の話も、とても楽しく時間を過ごさせて頂きました。初めて研修会に参加しました。いい時間を過ごさせて頂くことが出来ました。出来るだけ大勢参加されて来られればいいですね。(向山 仁美)



アスペンへのお誘い

アスペンってどんな所？そうお思いになるでしょうね。観光地ではありませんから、あまり知られてはいません。それだけに他の観光地では見られない、ある意味での本当のアメリカの姿が残っているとと言えるでしょう。このアスペンと京都には浅からぬ縁があるのです。

今から117年前の1888年に京都から二人の日本人がこの地を訪れ、あるアメリカ人から得た知識によって、後世に役立つ大きな事業を成し遂げることが出来ました。それは水力発電です。

碁盤の目の町並み、周囲からは高からず低からずの山に囲まれている…という、まるで京都！と思われるかも知れません。1200年と200年ではあまりにも歴史に違いがあり、風景も文化も全く違うのですが、京都に古の文化が息づいているように、アスペンにも当時の建物が保存されています。そして市民も歴史と文化を大切にしながら、街づくりを進めてきました。地の利を生かしてスキーのメッカとして有名になりました。環境の良さを生かしてアスペンインスティテュートを発足させ、世界中から知識人を集めて会議をしています。夏には音楽祭もあって、アメリカ中から人が集まってきました。鄙びた街ですが魅力的な所です。

一度訪れてみませんか？今まで知らなかったアメリカが見えてくるでしょう。

高木 清子

此のたびアスペン研修旅行が決まり高木文平氏に関する本を読みました。

京都の市民が琵琶湖疏水から受ける恩恵の大きさは測り知れぬ位ですが、疏水工事完成に注がれた先人の苦労・努力を知り、デブロー氏と日本の若き技術者との劇的な出会いの町アスペンを尚よく見聞したいと思う様になりました。「水」こそ生命の源であり、市民生活の欠かせぬ要素です。「水」についてこの研修旅行が学習のよいステップになる事を願って、会員の皆様、また会員以外の方々に6月の旅行へのご参加をお誘い申し上げます。

武田 公子

編集後記

世界的に見て女性の社会進出が進み始めています。我が国ではすでに女性知事が4人、副知事が5人と誕生しています。

そんな中私達海外研に於いては、副知事交流会をはじめ、全国の女性副知事サミット第1回を京都で、2回目は滋賀へと参加してまいりました。今年も岡山で計画されています。

私達会員の皆様もそれぞれのお立場で各方面での女性のパワーを発揮されていることと存じます。「生きる豊かさ」を求め、前向きな強さで一層飛躍されますことをご期待申し上げます。

発行責任者 海外研修KYOのあけぼの会 役員一同